

二十四年度補正予算

予算特別委員会 Q&A

総務部

Q 自主防災組織の予算が増えたが、その理由は。

A 22年、23年よりかなりの補正。自主防災組織が増えたことが要因。現在12地区から申請がある。

Q 公用車のリース終了後はこれから購入の方針でいくのか。また、更新の用途は。

A 財政の状況による。購入の方が安くつくことがある。更新は20万キロ走行を目的にしている。

Q 自主防災組織で、準備する物の指針はあるのか。指針を提示することは考えていないのか。

A 指針は特にない。各地で必要な物を購入。現在は消火栓用のホースの購入が多い。

消防本部

Q 消防団活動で、訓練をコンクリートの上でしているが、器具の損傷が大きい。土上で出来る様な方針はないのか。

A 有事の訓練であり、あらゆる場所での対応が必要。特に指針はない。

Q 防災組織に要望があれば補助しているが、市の防災計画はあるのか。ヘルメットは防災組用か、被災者用か。

A ホースや消火栓用の備品などあてはまるものを補助している。

Q 消火栓用のホースは市で整備するものか、自主防災組織で整備するものか。

A ホースは地区の消火栓で使用するもの。自主防災組織で準備することになっている。

Q ホースは1本いくらくらいか。

A 規格等で様々であるが、2〜3万円程度。

市民福祉部

Q 透析バスを利用して古川と高山へ通院される透析患者の割合は。

A 高山は0。古川病院と市民病院に多数の方が通っている。

Q 市民病院が一杯で、富山に行っている透析患者がいると聞くがどうか。

A 正確な数値は把握していないが、透析を断られて富山の医療機関に通っているとは聞いていない。

Q ノロウイルスの感染予防対策は。情報発信や啓蒙は。

A 12月の広報及びHPに掲載。保育園等関係機関への指導も適切に行っている。

教育委員会

Q 遠征で食中毒が発生している。調理員への健康管理などの対応は。

A 月に2回の検便を行っている。冬は適宜ノロウイルス検査をしている。

Q 交流センターの入り口に3mほど屋根のない箇所がある。ハートピアまでも屋根のない箇所がある。車いすの方も見える。対応できないか。

A 当初は屋根がある予定だった。現時点では工費が大きい。ハートピアについても工費が大きいので慎重に対応したい。

企画商工観光部

Q 就職ガイダンスの参加企業数・参加者数は。

A 毎年春と夏の2回実施。春は、大学4年生を対象として参加企業34社（内市内企業13社）、参加者91名。夏は、一般の方を対象として参加企業42社（内市内企業9社）、参加者135名。今回の補正予算は、特別に冬の企画として大学3年生を対象に開催する。

Q 離職率が高いため、あらゆる就職情報の発信を。

A 市のホームページに市内企業やハローワークから提供された求人情報を掲載している。また、飛騨City人材会議では春休みに高校2年生を対象に市内企業の見学会を実施している。「広報ひだ」では企業紹介を4月から実施。さらに新成人で希望する方、成人者の保護者に対しても求人情報の提供を開始する。

Q 住宅リフォーム事業の件数、経済効果は。

A 過去3年間の補助人数は14,222人、補助金額は4億9千2百万円余、工事金額は29億2千4百万円。

環境水道部

Q 粗大ごみのリユースについて、計画はあるか。

A 収集物には手間をかけず

市民の受け渡しがある場所で、日時を設定して行う機会を検討している。

Q 分別収集の推進により、各種団体が行う資源回収等の量はどうなっているか。

A 量は、年々減少傾向であり。金額は、単価の変動により増減がある。

基盤整備部

Q 建物や橋梁の長寿命化と耐震工事の考え方は。

A 耐震は、地震に耐えられるように補強などを行うものであり、老朽化している物の寿命を延ばす工事が長寿命化である。

Q 橋梁の老朽化の調査とその対応は。

A 橋梁の長寿命化が必要なものは74橋あり、重要度が高いものから優先して進めている。1橋で1億円かかる場合もあり、各種補助事業を取り入れながら進める。

Q 1億円の補正工事の内容は。

A 土地改良、道路改修、河川改修など、市内の景気対策として年度内発注をめざす。

Q 金森町の郵便局跡地への移転は、どうなっているか。

A 県道拡幅工事のため、2軒の転居を予定している。